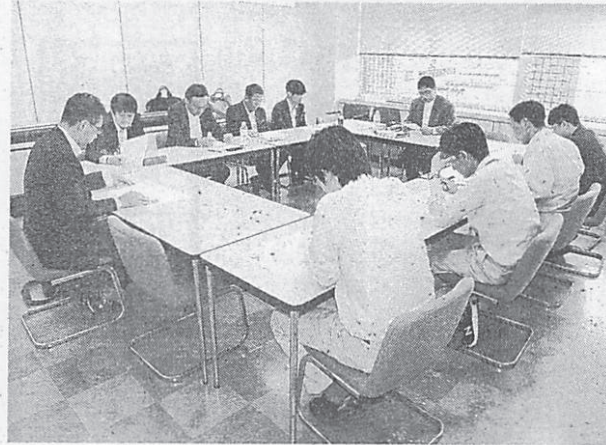


今年度も試験施工実施へ

富山市発の補修オリンピック

富山市と北陸SIP
(戦略的イノベーション
創造プログラム)のメン
バーである教員、構造物
補修メーカーらが連携
し、道路橋の最適な補修
工法や材料を選定してい
く富山市発信の取り組み
「補修オリンピック」の
19年度会議が16日、富山



今年度の補修オリンピックの実施方針などを検討した会合＝富山市役所

市役所で開かれた。

富山市から植野芳彦建

設技術統括監、橋りよう

保全対策課の榎尾正樹課

長代理、杉谷真司係長と

宇津徳浩主査、北陸SIP

からは、金沢工業大学

の宮里心一教授、田中泰

司准教授、花岡大伸講師、

富山県立大学の伊藤始教

授、長岡高専の井林康教

授、石川高専の津田誠准

教授、福井大学の鈴木啓

悟准教授が出席。

この日はまず、昨年度

に試験施工を行った市内

5カ所の現地を視察。市

役所に戻り、試験施工に

協力した5社(タイフレ

ックス、大同塗料、デー

ロス・ジャパン、住友大

阪セメント、サンコーテ

ク)の報告書を基に作

業内容を確認した。

今年度の試験施工につ

いて、植野統括監が「継

続して実施したい。工種

などは絞らず、幅広く公

募してほしい」との考え

を示し、継続実施が決ま

った。教員から協力企業

が橋を選びやすいよう、

点検結果や現況写真など

を提示しては」との提案

があり、市は「位置情報

を除き、出来るだけ公開

したい」とした。

試験施工を検証する屋

内実験の実施、試験施工

の対象橋であることが判

別できるよう、銘板を設

置することも決めた。

試験施工の協力企業は
今後、関連する会議やイ
ベントなどを通じて、広
く募集していく。

補修オリンピックは、
道路橋における補修工法
の有効性を評価するた
め、富山市が実橋(フィ
ールド)を提供。試験施
工を踏まえ、北陸地方の
市町村に適した工法を構
築し、発信しようと昨年
度から始動したもの。